

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000154		
法人名	医療法人社団 輝正会		
事業所名	グループホーム はたなか		
所在地	尼崎市大庄西町1丁目10-15		
自己評価作成日	平成27年 2月16日	評価結果市町村受理日	平成 28年 6月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyougo.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成 28年 4月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体及び連携医療機関である畠中整形外科・リハビリテーション科において、医療管理の体制やリハビリテーションの充実により、入居利用の方の健康維持や促進に努めることができています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人(整形外科、リハビリ科、内科)が母体で、デイサービス、通所リハビリを併設している。年間行事や地域のボランティア訪問、幼稚園児との交流、中学生のトライやるウィークの受け入れなど、法人全体で継続して取り組んでいる。家族会を通じた家族との情報交換も活発で、良好なコミュニケーションが図られている。管理者は、グループホーム連絡会を通じて情報交換を図るとともに、職員の交換研修を通じ職員のスキルアップにもつなげている。独自の地域との双方向の交流は、今後の課題ではあるが、事業所は、地域に根差し必要とされる資源として貢献することで、将来の高齢化問題にも共に取り組んでいくことを目指している。認知症になっても最後まで住み慣れた所で暮らせるよう、さらなる認知症の啓発、推進を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示板など、職員の目に入る場所に張り出している。	家族や来訪者にもわかりやすくフロア内に掲示し、職員の目につくよう、事務所内にも掲示している。日々の申し送り時に職員間で確認し合い、周知に努めている。毎月の職員会議でも唱和するなど、振り返りの場としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にも参加して頂き、地域の催しには出来るだけ参加している。デイケアに保育園児がくる時に、一緒に参加することもある。トライやるウィークの受け入れもしている。	地域代表者の協力を得ており、行事等の情報提供やボランティアの訪問がある。近隣に保育園、学校があり、子どもたちとの交流が継続されており、利用者の楽しみとなっている。地域への行事参加を通じた交流には、まだ至っていない。	事業所として地域との交流を進めると同時に、利用者を通じたふれあいの機会を持たれるよう重ねて検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、町会の代表の方との話し合いも行い、事業所において出来ることを題材に話している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み等の報告を行い、会議で出た意見を取り入れ、ケアや地域との交流に活かしている。	運営状況や居室の空き状況等の報告を行い、意見を聞いている。事業所の存在をアピールする意見を得て、表通りから見やすい場所に看板を設置するなど反映した。議事録はホールに設置しているが、家族や参加者への配布はされていない。	出席者及び家族に議事録を配布することで、事業所への理解や周知を少しでも広げていかれてはいいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業に関する事でわからないところは相談の連絡をしている。	市担当者とは、必要に応じて事務連絡等を行っている。グループホーム連絡会を通じて情報交換を行ったり、相談もしている。介護相談員の訪問が月に3回ある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止について意識付ける為カンファレンスで出したり、連絡帳に書類をはさみ発信している。	特に研修としては行っていないが、必要な情報は職員に伝えている。家族の要望で、やむをえずセンサーマットを使用している人がおり、取り外せるよう検討しているが、現状では難しい。フロアは職員の勤務体制の状況に応じ、利用者の安全を再優先し施錠している。	フロアへの出入りについては、開錠できる時間を少しでも増やせるよう検討いただきたい。センサーマット使用についても、継続して検討してほしい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営規定や重要事項にも取り入れ、カンファレンス等で話しをしている。	カンファレンスで話しをしたり、又は連絡帳で発信し、その中で虐待について学んでいる。職員のストレスチェックに関しては、コミュニケーションシートを用い、個人面談を通じて職員のストレスが虐待に繋がらないよう努めている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人やグループホーム内のカンファレンスで、勉強会を行っている。	現在、活用している利用者はいない。法人研修により、職員への周知を図っている。資料等の整備や家族への情報提供は、まだ十分行っていない。	早急な資料の整備と共に、家族会を通じて情報提供をされてはいいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず行き、家族の意向をお聞きするようにしている。	関係資料を基に、費用についてや看取りについての説明など丁寧に行っている。特に医療面での不安や疑問点を受け、出来ること出来ないことをわかりやすく表にして説明している。夜間での転倒等のリスクについても、納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の窓口があり、話しを聞く体制を取っている。	家族会や来訪時に意見や要望を聞いている。家賃について値下げしてほしいとの意見を受け、保証金や家賃について法人内で検討した。今後、運営推進会議で報告し理解を得たいと事業所は考えている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はホームにたびたび赴き、ホームの様子観察などを行い、また管理者はカンファレンスなどの話し合いの機会を持っている。	職員会議で薬の管理に関する改善意見があがり、時間を要したが反映した。イベントの新企画や遠足の行先などの提案もあり、その都度検討、反映している。管理者は、個別に職員の意見を聞く機会を設けるなど、話し易い関係性を大事にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コミュニケーションシートを行い、向上心を持って勤務を行うよう勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その時々で必要と思われる研修・勉強会の参加を促すようにしている。また、法人における勉強会があり、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者連絡会に参加し、連絡会主催の討論会や交換研修などに参加し交流を深め、サービス向上に役立っている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で出てきた不安や困っていることにはよく話を聞くようにしている。また、解決できることはその状況に合わせて、解決に導くように働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の相談から、多少なりとも関係作りが出来ていると考える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居利用相談時に、内容によっては他のサービス等の紹介なども考慮に入れ、話をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にその考えを持ち、支えあう関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係を行事などを通し協力を仰ぎ、一緒に入居利用者の方を支えて行く関係を築いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係に関してはお聞きしたり、その方が訪ねて来たりとされるが、馴染みの場所に関しては対処できていないところがある。ご本人、ご家族の方にお話を聞いていければと思っている。	昔の仕事仲間が訪ねてきたり、受診外来で馴染みの人に出会いおしゃべりするなど、交流の機会がある。年賀状が届くこともあり、入居後の新たな馴染みの関係にもつながるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にフロアの状況を観察し、その時の状況や状態により関わりを考え、その様に努めている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その様な方が現れた時は必要に応じ、関わっていききたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールにセンター方式を用い、入居利用者本位に対応できるように努めている。	主に、居室担当が利用者の表情の変化や様子から意向を読み取り、申し送りノートに記録し共有を図っている。入浴など1対1でゆっくりくつろげる時に、好きなことや食べたい物、行きたい所などの要望を聞いて反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールにセンター方式を用い、入居利用者本位に対応できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・個人記録を時間ごとで区切り、その方の一日を把握できるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門的な意見も取り入れ、ご家族様とも話し合っている。	職員会議で、ケアマネが職員から利用者の日々の状態変化や様子を聞きとり、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。家族からは、来訪時または電話で要望を聞き、医療関係者からの意見も併せ、ケアマネが計画を作成している。基本、半年毎に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしを個人記録として毎日記帳し、その方の情報源の一つとして様々な事柄に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連携医療機関でのリハビリテーションなどを取り入れている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の八百屋、魚屋、散髪屋など、また必要性に応じ、ボランティア、消防署などの協力を得て支援している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人が医療法人であり、内科医の診察も行われ、全員が主治医としており、必要な時には診察を受け支援されている。	階下に法人のクリニックが有り、利用者の殆どが納得のうえ、かかりつけ医として利用している。隔週の内科往診と月に一度の整形外科受診があり、全利用者の健康管理に努めている。歯科、泌尿器科からの往診も有る。他科受診には家族が付き添う。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を一人配置し、医療面でのケアや相談を行えるようにしている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居利用者が、長期治療、入院などが必要となった時、連携医療機関との情報交換などの話し合いを行うようにしている。	昨年度、入院事例が2件有った。入院中の病棟訪問はしていないが、病院からの医療情報に基づいて退院後の計画を立てている。病院から事業所へ、新規の入居を受け入れる場合は、病棟で面談したうえで受け入れ準備を図っている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設当初より看取りの意識を持ち、終末期ケアに関しては常に話しており、連携医療機関のドクターやグループホーム職員の看護師、介護職員は連携を常に意識し、備えている。	看取りが必要となった時点で「看取り期カンファレンス」を行い、家族と確認書を交わす事に行っている。昨年度、2人の看取りを行った。事業所の看護師と法人の医師が医療面でのケアを担当し、家族にとって安心できる対応が可能となった。経験に基づいた内容での研修は行っていない。	研修によって看取りの体験を共有することが、職員への啓蒙になるのではないだろうか。又、運営推進会議や家族会で報告することで家族の信頼と安心につながると思われる。
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携医療機関のドクターと相談したり、マニュアルの整備、研修などで実践力を身につけるようにしている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署と連携し、法人で行う緊急の避難訓練を年に1回、事業所独自の訓練も1回行い、非常時に対応できるよう訓練している。	事業所単独の避難訓練で夜間を想定しているが、実質的な夜間想定には至っていない。訓練には消防車も出動しているが、近隣住民への事前説明はしていない。畠中整形外科・リハビリテーション科は、地域の津波等一時避難場所に指定されている。	特に夜間を想定した訓練では、実際の体制に即して実施して頂きたい。近隣住民に事前に案内をすれば、防災に関する事業所の姿勢がアピール出来、協力関係への糸口にもつながるのではないだろうか。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の書面を張り出し、職員に対しては必要に応じ話しをしており、書面でも誓約書をとって、対応には気をつけている。	起床時間を利用者主体にするなど、個々の生活のペースを大切にしている。利用者同士の関係性に配慮し、食事時の着席場所や利用者同士の距離感に気を配っている。脱衣所に洗濯機が置いて有るが、入室前のノックに関しては、徹底できていない。	入室時には、ノックを励行するなど周知をして頂きたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に接する時には常には行っており、アセスメントツールのセンター方式においても入居者様の気持ちを考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体のケアを考え、その支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は本人の希望を出来るだけ叶えられるよう支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その入居者様の精神・身体レベルに合わせた、食事に関するお手伝いの支援を行っている。また、食べたい物や季節の物も取り入れている。	契約会社が作成した献立とレシピに基づいて、担当職員が調理している。利用者の希望によって、予定とは別の献立にする日も有り、利用者と一緒に食材の買い物に出掛けることもある。職員は、介助をしながら同じ献立を同じテーブルで摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態把握をしており、個々の体調や体重なども把握し、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが必要と思われる入居者様は、歯科往診による口腔ケアをお願いしている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表があり、一人ひとりの状態・状況に合わせた排泄の支援を行っている。	殆どがリハビリパンツとパットを使用しているが、職員はそれぞれの自立度と排泄リズムを見ながら、トイレでの排泄を支援している。コミュニケーションが難しい利用者の場合は、態度やしぐさを見て、優しくトイレへ誘導する様にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師とも話し合い、必要と思われる薬の使用や食事に関しては、食事担当の職員は飲食物に留意し、思考錯誤を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回の入浴を考え、ご本人にも確認し、体調を考慮しながら行っている。	入浴は週に2～3回、13時～16時が原則であるが、職員の体制により利用者の希望を優先する事も有る。重度の利用者については、今年度から週に1～2回、階下のデイケアサービスの機械浴を利用することで、安心、安全な入浴が出来る様になった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の入居者様の状態を考え、休息・就寝の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により、入居者様一人ひとりに即した服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、入居者様の楽しみ事や生活歴を理解しており、出来るだけそのご本人の力が発揮できるような声掛けなどの支援に努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩日を設けず、声掛けし、希望に沿うよう心掛けている。また、天候や本人様の状態により行っている。	日常的に事業所の周りや近隣の公園、花壇の近辺を散歩する。直ぐ隣のコンビニで買い物をする利用者もいる。家族が付き添って散歩に出掛ける事も多い。法人の事業所の車を活用して、片道1時間程度のエリアへ出掛ける事も有る。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人で立替えをし、領収書を会計にまわしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の力量によって、援助させて頂くことを考えている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間(フロア)には、さりげなく季節を感じさせるものを掲示している。	リビングは三方から陽が射しこみ明るく、大きなテーブルを置いても十分なスペースが有る。床暖房によって冬季でも快適に過ごせる。壁面には、季節が感じられる作品、敬老の日に押した手形、5月5日の背比べの記録、誕生会でのスナップ写真などが掲示されている。脱衣場と浴室に空調機が有り、安心して快適な入浴が出来る。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは広く、ソファーや椅子も多く用意しており、一人ひとり、思いおもいに過ごせるようにしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の家族や関係者に話を聞き、使い慣れたもの、好みのものを持ってきて頂いている。	室内にトイレと洗面台、クローゼットが有り部屋が広く使える。家具と備品の持込みは自由であり、ベッドは利用者が使い慣れた物を持ち込むか、レンタル会社の商品から選ぶ事が出来る。利用者それぞれが、家族の写真や趣味の品々を並べ、アットホームな雰囲気となっている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の個別ケアを重要視し、センター方式などを使い、その人の力を活かせるよう考えている。		